

# お出かけ前の点検

## CORONA MARK II 1900 HARDTOP GSS

あなたのコロナ・MARK II 1900 ハードトップ GSS をいつも快適にご使用していただくために、お出かけ前に次の事柄を点検してください。



### ■仕業点検

お出かけ前にこれだけはぜひ!!

どなたでも車を一回りすれば気軽に容易に点検ができます。

点検はムダを省き手順よく行るのがコツ  
①→②→③の順に行ってください。

1. まずエンジン・フード  
オイルと水の点検……………①
2. 次に運転席に座ってエンジン始動  
各計器類を点検し、ウォーム・アップさせながらハンドル、ブレーキなどを点検……………②
3. ヘッド・ランプをつけ、車を出て周囲を一回りする間にタイヤ、ランプ類、オイル漏れなどを点検……………③
4. 再び運転席に乗り出発前に除行させながら速度計や、ハンドル、ブレーキの作動を点検……………④

項 目		点 検 内 容
異状箇所		前回の悪かった所はないか。
車のかたむき		前・後輪のスプリングに損傷はないか。
タイヤ		空気圧は適当か。異常摩耗(残り溝1.6mm), 損傷はないか。
エンジン		エンジン・オイルは規定量はいつているか。 異音は出ていないか。排気の状態は正常か。
ラジエーター		冷却水は規定量はいつているか。
バッテリー		バッテリー液は規定量はいつているか。
ブレーキ	踏み残り代	いっぱい踏み込んだときの床とのすきまは 55mm 以上か
	遊 び	0.5~5mm あるか。
	液 量	規定量はいつているか。
パーキング・ブレーキ		引き代は適当か。13ノッチ以内残り(9ノッチ)
ステアリング・ホイール		ゆるみ, ガタはないか。回転方向の遊びは 50mm 以内 異常に振れたり, とられたり, 重くないか。
各ランプ類		各々のランプは点灯するか。
各計器類		作動はよいか。
ホーン		鳴るかどうか。
ワイパー		作動は良いか。
ミラー		後方がよく確認できるか。
ライセンス・プレート		傷はない汚れ, 損か。

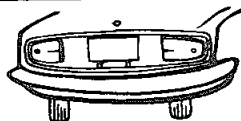
この中には、道路運送車両法によりドライバーに義務づけられた仕業点検項目が含まれています。

## ④車の下をのぞいて



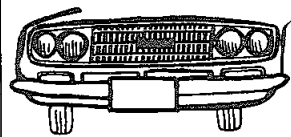
- エンジンオイル洩れ
- トランスミッションオイル洩れ
- ディファレンシャルオイル洩れ
- ブレーキ配管オイル洩れ
- ラジエータ水洩れ
- バネの折損

## ⑤車の後から

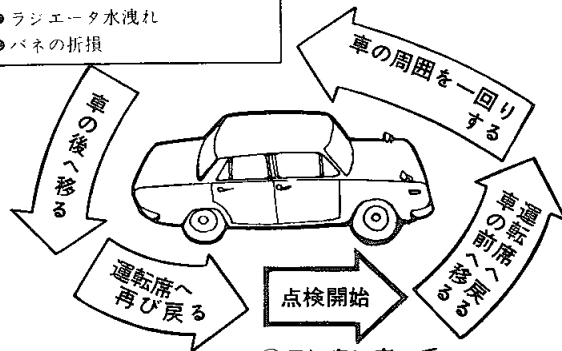


- テールランプ点灯
- ナンバープレートの汚れ
- 排気ガスの色
- タイヤ空気圧、傷、摩耗

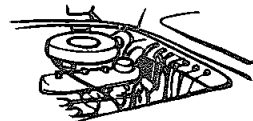
## ③車の前から



- ヘッドランプ点灯
- パーキングランプ点灯
- ナンバープレートの汚れ
- タイヤ空気圧、傷、摩耗



## ①まずエンジンフードを開けて



- エンジンオイル量・質
- ブレーキフルード量・質
- クラッチフルード量・質
- 冷却水量・質

## ⑥徐行しながら



- 水温計、速度計
- ハンドルの重さ
- ブレーキの効き

## ②運転席に座って



- 燃料計（ガソリン残量）
- 充電計、油圧計
- ターニングナルランプの点滅
- ハンドルの遊びかた
- ブレーキペダルの遊び残り代
- ワイパー、ホーン作動
- リヤビューミラー写影

(以上のほかにテールランプ、ブレーキランプ、バックランプの点灯の確認をしてください。)

## ■高速走行前の点検

高速走行前は、仕業点検はもちろんですが、次の項目も追加点検してください。

項目	点検内容
タイヤ	石、釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ、フィン間にごみなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ぎきはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触、損傷、取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガソリン	目的地まで走行するのに十分はまっているか。

## 車外での点検

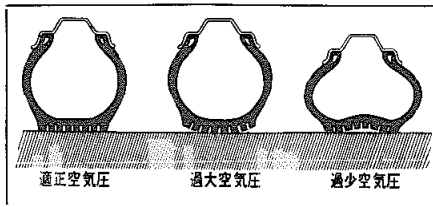
### 1 = 外まわり

まず、車にのる前に車のまわりを、一まわりして、ボデー、レンズ、タイヤなどに異常がないか調べます。

### 2 = 下まわり

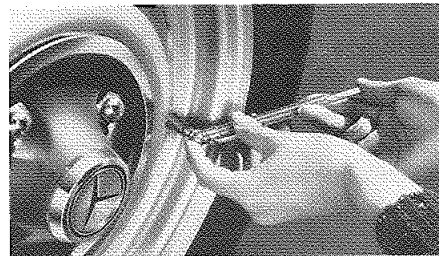
車をとめておいた地面に油とか水の漏れたあとがないか調べます。  
もし異常があると思われるときはサービス工場で点検を受けてください。

### 3 = タイヤの点検



タイヤの空気圧を見ます。外観より判断

する目安は図のとおりですが、正確な判断は困難ですから、タイヤ・プレッシャー・ゲージをご使用ください。

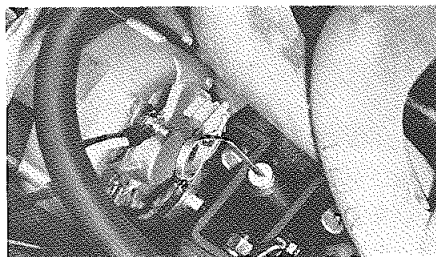


空気圧を計るときは、次のようにして行ないます。

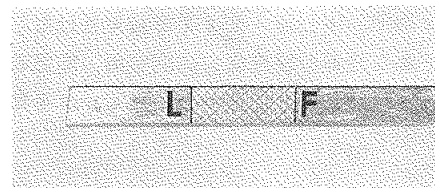
タイヤの空気口のキャップをはずし、タイヤ・プレッシャー・ゲージを、空気が漏らないようにしっかりと空気口に押しえつけます。とび出してきた目盛棒は、勢いにより多目にとび出すことがありますので、指で軽く押しえゆっくりはなししてから目盛を読みます。測定後、空気の漏れがないことを確かめ、キャップをはめます。

# エンジン・ルーム 内の点検

## 1 = エンジン・オイルの点検

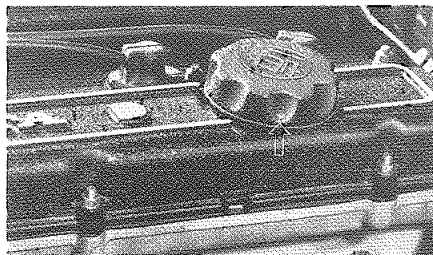


エンジン・オイル量はできるだけエンジン始動前に調べます。いったんゲージを布でふいて差し込み、オイルの線が“F”と“L”の間であればよい。



オイルの汚れや変色の著しい場合は交換してください。

## ■エンジン・オイルの補給



補給はオイル・ファイラー・キャップを左にまわして取りはずし、そこから行ないます。“F”以上入れ過ぎないようにご注意ください。

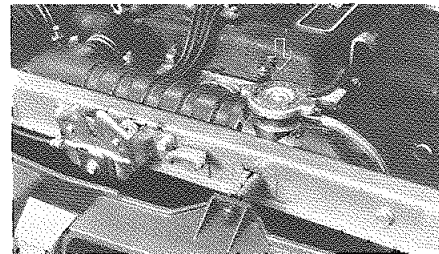
オイル・パン容量…………… 4.1ℓ  
オイルは、キャスル・モーター・オイル・スペシャルをお使ください。

### 《注意》

1. オイルを補給したあとは、しばらく間をおいて、どれだけあるか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください。
2. オイルは、できる限り同じ銘柄のも

のを補給してください。

## 2 = 冷却水の点検



点検と補給……ラジエーター・キャップは左に約90°まわすとはずれません。水が口元から約20mm以下のときはきれいな水を入れてください。

しめるときは、キャップ裏側の爪を切りかきに合わせてはめ、押さえながら右に止まるまでまわしてください。

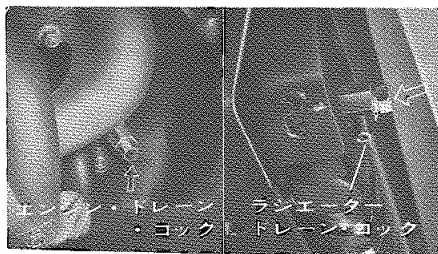
なお、ラジエーターの水は、口元までいっぱい補給すると運転したあと水がすこし減りますが、これは故障ではありません。ある程度減ると、それ以上減りません。

**不凍液**……冬期には、ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍るとラジエーターや、エンジンを破損することがあります。

不凍液を入れる量によって、冷却水の凍る温度が変わります。キャッスル不凍液の場合は次表のとおりです。

不凍液はトヨタ純正キャッスル・不凍液スペシャルをご使用ください。

凍結防止温度 ℃	-5°	-10°	-15°	-20°	-25°	-30°
不凍液必要量(ℓ)	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4



不凍液の注入は次の要領で行ないます。

**1**ラジエーターおよびシリンダ・ブロックのドレーン・プラグを外し、冷却水を

抜きます。

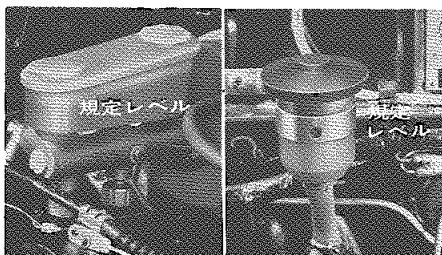
**2**水道の水を出したままにして、ラジエーターおよびエンジン内を洗滌します。

**3**冷却水を全部抜いたのちラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックをしめつけます。

**4**ラジエーターに適当量の不凍液を入れきれいな水を満たします。

暖かい季節になり凍結の心配がなくなったら、不凍液を抜き、ラジエーターおよびエンジンを洗滌してきれいな水を入れてください。

### **3** = ブレーキとクラッチのフルード



タンクの外からオイルの量を見て規定レ

ベル以下のときはそのレベルまでフルードを補給してください。

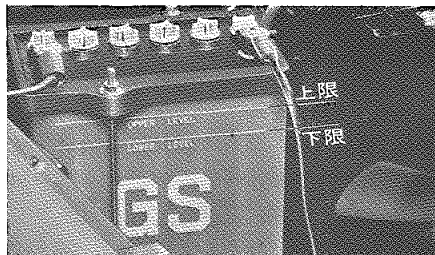
万一、フルードの減り方が著しいときはサービス工場にご連絡ください。

**1**フルードは必ずトヨタ純正ブレーキ・フルード（グリコール2400）を補給してください。銘柄の違ったフルードの補給は、絶対に避けてください。

**2**補給のとき、ゴミがタンクの中に入らないように注意してください。小さなゴミでもフルードに混じると、ブレーキやクラッチが効かなくなり危険です。

**3**タンクの上面には通気孔があけてありますので、目づまりのないように注意してください。

## 4 = バッテリー液の点検



バッテリーの中の電解液は、使っているうちに蒸発して減ります。

バッテリー・ケースは半透明になっていますので、液量は外から点検できます。液面がUPPER・LEVELとLOWER・LEVELの間にあればよく、少ないときは、UPPER・LEVELまで蒸留水を補給してください。

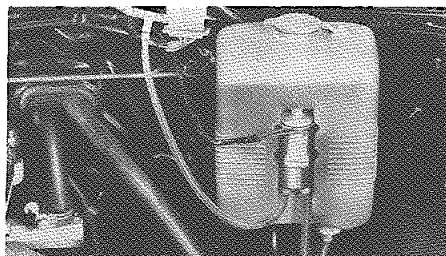
### ＜注意＞

1. 液は必ず蒸留水を使ってください。
2. 電解液は希硫酸のため、衣服や塗装を犯しますのでご注意ください。
3. バッテリーのキャップには、通気穴

があけてありますので、目づまりのないことをお確かめください。

4. ターミナル部がゆるんでいたら、締め付けてください。
5. ターミナル部に白い粉が付いていたときは、温水で清掃し、グリース、またはワセリンを塗布してください。

## 5 = ウォッシャー液の点検



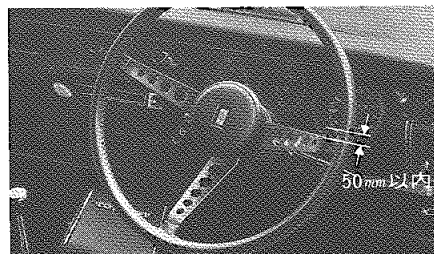
ウォッシャー液が空のままモーターを回しますと、モーターのこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておきましょう。

寒冷時には液が凍結し、タンク等を破損することがありますので、凍らず洗浄力

のすぐれたトヨタ・ウインドゥ・ウォッシャー・フルードをご使用ください。

## 車内での点検

### 1 = ステアリング・ホイール



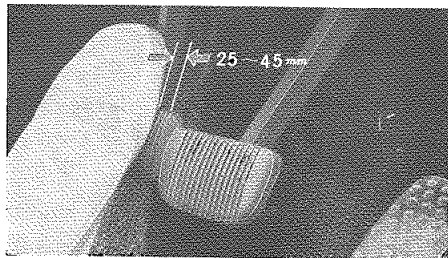
ホイールを左右に軽く動かしたときの遊びは、外周で50mm以内が正規です。遊びが多いとき、何か異常の感じられたときは、早目に取扱店のサービス工場での点検を受けてください。

### 2 = ブレーキ・ペダル

ブレーキ・ペダルをいっぱい踏みこんだ  
無断複製禁止

とき、ペダルと床との間が55mm以上あり、又そのままの状態、エンジンを始動しペダルが少し、奥へ入れば異常ありません。しかしこの踏み残りしろが少ないとき、またブレーキの効きがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください  
 運転中ブレーキを踏んだときに万一パーキング・ブレーキ・インジケータ・ランプが点灯したときは、ブレーキ関係に異常がありますので、サービス工場にご連絡ください。

### 3 = クラッチ・ペダル

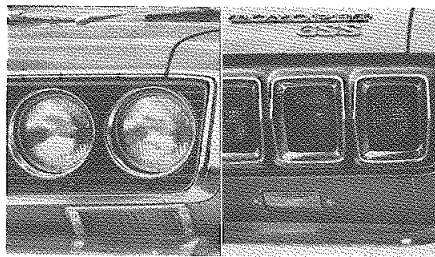


ペダルを踏んで、はじめの25~45mm位はほとんど抵抗なく、その後、抵抗を感

じながらいっぱい踏みこめるときは、正常です。

始めからペダルが重いとき、または、抵抗なく踏めるときは、サービス工場へ連絡してください。

### 4 = ランプ類、計器類の点検



ストップ・ランプ……ブレーキ・ペダルを踏んでランプの点灯することを確認します。

ターン・シグナル・ランプ……エンジン・スイッチをONにして左右同じ早さで点滅するかを確認します。

ヘッド・ランプ……ライト・コントロー

ル・スイッチを二段目まで引いたのち、ディマー・スイッチを作用させて点灯を確認します。

ヘッド・ランプ・ホーン……レバーを手前に引いてヘッド・ランプのメインビーム点灯することを確認します。

スモール・ランプ……ライト・コントロール・スイッチを一段引いてスモール・ランプ、テール・ランプ、ライセンス・プレート・ランプの点灯することを確認します。

ハザード・ウォーニング・ランプ……ハザード・ウォーニング・ランプ・スイッチを引いて前後、左右のターン・シグナル・ランプ、左右のインジケータ・ランプが同時に点滅することを確認します。

バック・アップ・ランプ……エンジン・スイッチをONにし、コントロール・レバーをRの位置にして、バック・アップ・ランプが点灯することを確認します。

ホーン……ホーンの正常なことを確認します。

ワイパー……ワイパーが正常に動くことを確認します。フロント・ガラスの汚れホコリを取除いて行ないます。

各リヤ・ビュー・ミラー……運転する姿勢で後方がはっきり見えることを確認します。

ライセンス・プレート……汚れ、損傷のないことを確認します。

計器類……エンジン・スイッチをONにして、各インジケーター・ランプが点灯するか確認します。

エンジンを始動して、各警告灯、ゲージが作動するか確認します。

万一異常があり、ヒューズ、ランプ類などを点検し、なおらない場合にはサービス工場へ連絡してください。

(セルフ・サービスのしかた55頁を見てください。)

## 5 = エンジン音の点検

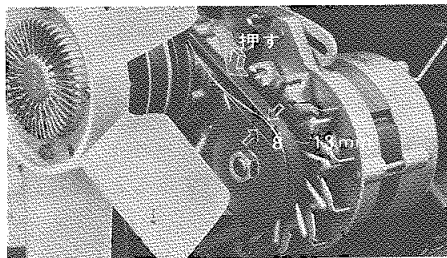
エンジンがかかっているとき、キンキン

音、金属的なコンコン音など異常のある場合は、サービス工場で点検を受けてください。

## 時々点検 するところ

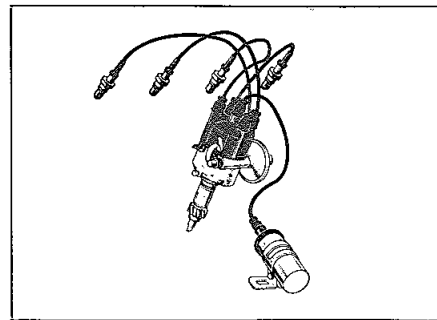
月に一度くらい、または、遠いドライブに出かける前は、次の箇所も点検すれば安心して運転することができます。

## 1 = ファン・ベルトの点検



キレツ、はがれなどの異常があるとき、張りが弱いときは、サービス工場で点検を受けてください。

## 2 = 高圧配線の点検

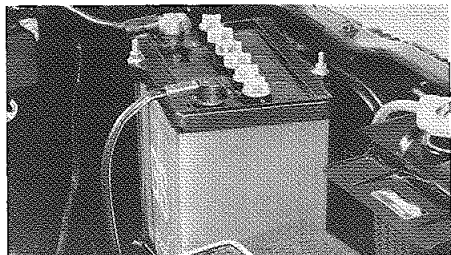


ディストリビューター、イグニッション・コイル間の配線の締付がゆるんでいないかどうか調べます。

プラグ、ディストリビューター、コイルにハイテンション・コードが完全にさし込んであるかどうか調べます。

プラグ、ディストリビューター、イグニッション・コイル付近に水、泥、油が付着しているときは、布できれいにふき取ってください。

### 3 = バッテリーの点検



ターミナルにゆるみがあれば、締付けます。

白い粉、ほこり等で汚れている場合には温湯で清掃してください。この時、槽の中に温湯が入らない様ご注意ください。

## ドライブ・テクニク

CORONA *MARK II 1900* HARDTOP GSS

